



■1月14日からアメリカ・カリフォルニア州サンディエゴで国際協議会が開催されました。

世界全地区から539地区、日本の34地区のガバナーエレクトとパートナーが一堂に会し、来るべき新しい年度に向けて研修を重ねました。バリー・ラシン国際ロータリー会長エレクトから発信された力強いテーマをしっかりと胸に受け止め、新たなロータリーの世界に思いを馳せておられることでしょう。

私たちロータリアンは、会員基盤を強化し、柔軟なクラブ運営をすることにより、より多くの理解者を増やす必要があります。ロータリーの素晴らしい理念を一人でも多くの人々と共有し、私たちが目指す究極の世界平和を手にしなければなりません。また、理念を求めると同時に行動もしなければなりません。皆様方お一人おひとりがロータリーの伝道者であります。ロータリーが活性化し、そのことのために更なる歩みを進めて頂きたいと思えます。

国際ロータリー 理事エレクト 三木 明

■柔軟性は会員増強の救世主になりうるか？

ご存知COL16においてクラブ運営に関する諸規定が従来のそれらと劇的に変革を遂げた事は記憶に新しい。それもこれも世界的に見て停頓気味の会員増強を強力に押し進めるため、又、ロータリー活性化の基盤である魅力的・効果的クラブ作りのために柔軟性導入はRIがまとめた最善の手段であろう。

①: 柔軟性導入後の影響

昨秋本邦全クラブに実施したアンケートの結果、柔軟性導入したクラブは全体の23%、導入予定18%、従来の運営踏襲が半数を越え53%、導入しないが6%という数字が出た。しかし、某クラブのように例会回数を月2回に減らしてみたら、ヤッパリ毎週例会が良いということで早くも元に戻したケースもあると聞く。一方、世界ではRIが2016/7/1、即ちクラブに柔軟性導入推奨開始時点の会員数は1年経過の昨年同時期と比較したら約5千人減の120万人強であった。これから推察すれば柔軟性導入は現時点で世界も日本も会員増加に貢献しているとは言えない。

②: 過去の増強について

日本での新会員は一般的に以下の手続き「探し出す、紹介する、入会を勧める、入会させる、導き・情報を伝達する、参加させる、研修する」を経て入会し、理念を伴った優秀なロータリアンに成長してきた。増強とは文字通り「会員を増やし、クラブを強くする」事だ。初めから柔軟性と言う概念はクラブにも新入会員にもなかったのは事実であろう。

③: 今後の増強について

増強は組織維持のため永遠の課題である。基本的にロータリーは他の奉仕団体と違うことを強調し、合わせて日本独自の慣習・考え方に則り進めるのがベスト。しかし、いつまでも過去の理論に固執し、世界の流れ、時代の流れ、社会環境の変化への対応が遅れないようにすべきだ。RIは柔軟性と言う画期的な概念を提案し、導入を推奨し、変革を促しているように我々もこれを日本流に改変し、応用し、増強に活用する時期が来たようだ。とは言っても増強への王道はクラブ会長と会員が一丸となって汗を流す事に尽きると思う。

第3ゾーン ロータリーコーディネーター補佐 伊藤文利 (D2690, 倉吉RC)

■各地域社会でのロータリー広報・公共イメージ活動

ロータリーの公共イメージの向上を図るために、ロータリーにはロータリアンやその活動の恩恵を受ける地域社会の人々との間に心温まる感動や感謝のストーリーが沢山あります。それをよりシンプルに、一貫性のある形で伝えていくことが大切です。そして、ロータリーの活動の成功例をマスメディアや地方自治体などに紹介できるよう、ロータリー公共イメージ向上に向け、地域に適したアプローチを促進することです。

ロータリーの公共イメージ向上に必要なことは何でしょうか。

ロータリーとは何か。ほかの団体とどう違うのか。なぜロータリーが必要なのかなど、ロータリーを人々に伝える方法を考え直す必要が生じています。

今、私たちがなすべきことは何でしょうか。

すべてのロータリアンがロータリーの一員として自覚と誇りを持って行動を起こすことだと思います。四つのテストに照らしてみましょう。

コミュニケーションをする際にロータリアン各自がロータリーの理念を守り、活動を推進して、ロータリーの目的を効果的に伝えることが重要です。

例えば、2730地区の私が所属している鹿児島西RCでは1965年からクラブ独自に定めた表彰制度で社会の目立たないところで誠実に継続的に意義のある社会奉仕活動を続けている個人あるいは団体を顕彰するためのロータリー賞を創設し、毎年のクラブ創立記念日例会で表彰を行いその活動を紹介しています。マスコミも表彰式には毎年取材をしてロータリー賞について報道します。

少子高齢社会の現在、地域には自治体やNPO法人などと共同で行うことができ、地域が必要としているプロジェクトが沢山あります。既にそれぞれのクラブが独自の奉仕活動を展開していますが各クラブの活動がロータリーの活動として認識してもらうためには、ロータリーの理念とRI戦略計画をよく理解し、統一されたロータリーのイメージで情報を発信することが各地域社会でのロータリー広報・公共イメージ活動が効果的なものになると思います。

第3ゾーン ロータリー公共イメージコーディネーター補佐 山下皓三 (D2730, 鹿児島西RC)